

# 作業所学会分科会 記録者用 事例・活動報告書

記録者名： 山田龍宏

発表者名： 大石影子

(事業所) 就労継続支援B型事業所ふくろう

(事業所) 第2くるみ作業所

役 職： 施設長

役 職： 施設長

## 【支援・活動事例の概要】

目標・目的	働く意味を再度確認して、支援に役立てること
計画・手段	西部地区の事業所に対して、アンケートを実施
内容・経過	・事業所に対しての質問 ① 「働く」の意味について ② 働くや日中活動への考え方 ③ 自由記述 ・職員に対しての質問 ① 働くについての満足度（4段階） ② 満足度への理由 ③ 自由記述 ・利用者に対しての質問 ① 働くについての満足度（4段階） ② 満足度への理由 ③ 自由記述
結果・課題	〈結果〉 満足度については、職員、利用者とも90%前後となる 意味についてポジティブな内容が多い しかし、多忙、賃金、情報共有、作業内容、かかわり等のバランスが取れていない等 〈課題〉 ・「働く」に対しての多様性への対応 ・価値観や意味を共有する為の方法 ・アンケート自体の有効性を上げる必要がある

## 【意見交換】

工賃への意味が人それぞれ（お金、名誉、貰える事自体）

働く内容をなるべく選べるようにする

居場所として始まった事が大切

本来の仕事が、作業に追われ出来ていない等

## 【まとめ】

（テーマに対する分科会としての結論や方向性）

働く意味が多様化している事に対応する力が問われてきている

その中で、喜びにつながる事（褒められる、工賃、好きな事が出来る、居場所、友達作り）をどの様に伸ばしていくか、難しさにつながる事（業務多忙・煩雑、給与工賃水準、情報共有の機会の確保、環境の整備、社会スキル獲得の機会創出）を変化させることが出来るかが課題として残る。また、アンケートの結果について回答数が少ないため、信頼性や信憑性について懐疑的なご意見もありましたが、制度に振り回されてしまった結果、働く人達にクローズアップする事自体を忘れてしまう事が多くなってしまったが、どのグループも小規模時代に大切にしてきた事が働く意味として挙げられたので、職員や利用者の働く事に対して変わらない価値観がある事は確認が出来たが、仕事として支援をする、される社会になった為が変わってしまった価値観もある事に気が付いた。

